

2020年1月27日  
NTT 東日本 山形支店

## 南陽市との RPA 活用実証実験開始について

東日本電信電話株式会社山形支店(支店長:両川英樹 以下、「NTT 東日本」)は、南陽市における自治体業務において RPA<sup>※1</sup>を活用し、業務における適合及び業務効率化への有効性を分析・検証する実証実験を南陽市と開始します。

自治体業務では、RPA により業務を自動化することで、職員の手作業を削減させ、削減した作業時間を創造的事業や市民へのコミュニケーションなどに充てることにより、市民サービスの向上、職員時間外勤務削減などの働き方改革が期待できます。

※1 RPA=Robotic Process Automation の頭文字。ソフトウェアロボットが業務プロセスを自動で処理する。

### 【背景】

南陽市では、少子高齢化の進展、市民の価値観・ライフスタイルの多様化など社会環境が変化する中、IT や限られた人的・経済的資源を有効に活用することにより、市民サービスを維持・向上、行政運営の効率化を推進しています。

このような中、自治体業務における ICT 利活用の本格導入検討に向け、今回 RPA による一連の効果検証を実施することとしました。

NTT 東日本は社内の業務効率化を通じて蓄積した「WinActor<sup>®</sup>」のノウハウを組み合わせることで「紙を使用した業務の効率化」という、どの自治体・企業等にも存在する経営課題の解決に貢献できると考え、本実証にいたしました。今後、当社では、自治体業務のデジタル化を推進する新たなサービスの展開などを検討してまいります。

1. 実証実験期間 2020年1月27日～3月31日

2. 対象業務 南陽市における軽自動車税申告入力業務  
農地情報管理システム入力支援業務

3. 実証実験利用ツール  
・RPA ツール 『WinActor<sup>®</sup>』<sup>※2</sup>(NTT-AT 社製)

※2 『WinActor<sup>®</sup>』は NTT アクセスサービスシステム研究所で研究開発された技術をベースに、エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社(本社:神奈川県川崎市、代表取締役社長:木村 文治)が商品化した純国産 RPA ツールです。

### 4. 役割

#### ・南陽市

実証実験を実施する業務および実施場所の選定、RPA ツールのインストール端末の準備、RPA ツールの運用、実証実験結果の提供等

#### ・NTT 東日本 山形支店

RPA ツールの提供、RPA ツールの導入支援(業務の絞り込みからシナリオ作成までの支援)、実証実験結果の取りまとめ等

## ■ RPA ツール「WinActor」による業務自動化イメージ

作業項目	WinActor 動作箇所	概要
入力・登録		システムへ大量データの登録等 繰り返し入力を実施
集計・加工		データを収集・加工し、 メールやファイルサーバで共有
データチェック		複数情報の相互突合チェックや ルールに基づいた比較チェック
システム間 連携		直接連携できないシステムや機器 からの情報を連携
情報収集		Webサイトの情報を収集し、 定期的にデータ化

上記項目を組み合わせの上業務を自動化することが可能です